

|              |   |
|--------------|---|
| Title        | グローバル日本研究クラスターについて : 2018年度活動記録   |
| Author(s)    | 宇野田, 尚哉   |
| Citation     | グローバル日本研究クラスター報告書. 2019, 2, p. 1-4  |
| Version Type | VoR   |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/72078">https://hdl.handle.net/11094/72078</a> |
| rights       |   |
| Note         |   |

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# グローバル日本研究クラスター

## 2018 年度活動記録

宇野田 尚哉

ここに発行するのは、大阪大学大学院文学研究科グローバル日本研究クラスター（以下、本クラスター）の報告書の第2集である。本クラスターについては本報告書第1集でも紹介したが、ここではあらためて本クラスターについて紹介したうえで、本年度の活動の概略を記録しておくこととしたい。

### 1. グローバル日本研究クラスターとは？

本クラスターは、大阪大学大学院文学研究科内に2014年度に設けられた「国際的社會連携型人文学研究教育クラスター（Global Linkage Clusters for Humanities）」（略称「人文学クラスター（GLinCH）」）の1つとして、同年度に設けられた。

この「人文学クラスター」は、従来の専門分野の枠にとらわれない研究組織として、〈1〉国内外の大学、研究教育機関、学術芸術機関、自治体等と共同して、分野横断的な新しい人文学研究の拠点形成を行うこと、〈2〉個別に行われてきた国際的な研究交流を文学研究科が支援するとともに、研究科内に組織化することによって可視化し、個の力を組織の力に高めること、などを目的としている（[http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/research/activities/projects/cluster\\_h26](http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/research/activities/projects/cluster_h26)）。

この「人文学クラスター」の1つとして設けられた本クラスターは、既存の枠組を横断するプロジェクト型の研究組織として、海外の日本研究者と緊密なネットワークを構築しつつ研究教育にあたることで、①本研究科の日本研究のグローバル化と、②本研究科の日本研究領域の大学院教育のグローバル化を図るとともに、③本研究科が日本研究領域の世界的拠点として認知されることを目指して、活動してきた。

第1期（2014～2016年度）の構成員は、入江幸男、浜渦辰二、舟場保之、三谷研爾、合山林太郎、宇野田尚哉、第2期（2017～2018年度）の構成員は、入江・浜渦・三谷・宇野田のほか、浅見洋二、輪島裕介、山本嘉孝、ヤスコ・ハッサル・コバヤシ、モハンマド・モインウッディン、周雨霏で、代表は、2014年度は入江、2015年度以降は宇野田がつとめている。構成員にドイツ研究者が多いのは、ハイデルベルク大学の日本学研究所との交流を担っていた教員がその実績を踏まえて本クラスターを立ち上げたという経緯があるからであ

り、そこに中堅・若手の日本研究者が加わることで現在の人員構成となった。

## 2. 2018 年度の活動と本報告書の構成について

本報告書第 1 集にも記したが、本クラスターの周辺では、活動を開始した 2014 年度の時点では想定していなかったことが、さまざまなかたちで起こった。

まず、身近なところでは、2017 年度から、文学研究科を実施部局として、大学院等高度副プログラム「グローバル・ジャパン・スタディーズ (Global Japanese Studies)」([http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/academics/fukupuro\\_GJS](http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/academics/fukupuro_GJS))が開講された。この教育プログラムは、日本研究の最新の成果を分野横断的に学ぶとともに、みずからの日本研究の成果を英語で発信する能力を高めることをねらいとするものであるが、この教育プログラムに対応する独自の研究組織があるわけではないので、実質的には、本クラスターがこの教育プログラムに対応する研究プロジェクトとしての役割を果たしてきた。本報告書に同プログラム関係のイベントの記録を収めているのは、そのためである。

また、学外では、国際日本文化研究センターが代表幹事機関となるかたちで、2017 年 9 月に、「国際日本研究」コンソーシアム (Consortium for Global Japanese Studies) が発足し、大阪大学大学院文学研究科も機関として参加した。文学研究科内で「国際日本研究」コンソーシアムに対応することになったのは、教育面ではグローバル・ジャパン・スタディーズ・プログラム、研究面では本クラスターであった。本報告書にその記録を収めたイベントがいずれも同コンソーシアムとの共催イベントであるのは、そのためである。

本クラスターの 2018 年度の活動記録は、別項「グローバル日本研究クラスター活動記録 (2018 年度)」の通りである。厳密に言うと、グローバル・ジャパン・スタディーズ・プログラムの活動として記録すべきものも含まれるが、上述した通り、同プログラムと本クラスターは相補的な関係にあり、担い手も実質的に重なるので、ここにあわせて記録しておくこととした。

2018 年度の本クラスターの活動にとって大きな意味を持ったのは、北米の気鋭の日本研究者クリスティーナ・イ氏 (ブリティッシュ・コロンビア大学助教授) に特任講師として約 1 ヶ月間ご滞在いただき、英語で集中講義をご担当いただくとともに、ソウル・大阪で講演会・ワークショップ等を開催したことである。記して感謝の意を表したい。

本報告書には、「国際日本研究」コンソーシアムと共催した 2 つのイベントの記録を特集として掲載した。それぞれの詳細については、各特集についての説明を参照されたい。また、ちょうどクリスティーナ・イ氏の最初の著書が刊行されたので、その書評も日本語で掲載することとした。英語圏の日本研究と日本の日本研究との交流の一助になれば幸いである。

## グローバル日本研究クラスター活動記録（2018年度）

\*所属・職位はイベント開催時のもの

- 2018年5月8日、若手研究者ワークショップ開催、Ruby de Vosさん（グローニンゲン大学大学院）報告、報告タイトル“The Power that Remains a Half-Century Later”: Radiotoxic Temporalities and Non-Human Attachments in From Trinity to Trinity、高橋進之介さん（神戸大学国際人間科学部助教）コメント
- 2018年5月30日、Takuma Melberさん（ハイデルベルク大学講師）講演会、演題 Remembrance of the Japanese Occupation Period in Singapore
- 2018年6月22日、高麗大学BK21 プラス中日言語・文化教育・研究事業団と本クラスターの主催で、高麗大学青山MK文化館において、講演会を開催。講演者・演題は、Christina Yiさん（ブリティッシュ・コロンビア大学助教授／大阪大学大学院文学研究科特任講師）Colonizing Language: Cultural Production and Language Politics in Modern Japan and Korea、宇野田尚哉さん（本研究科教授）「言語/文学を脱植民地化する：解放後在日朝鮮人文学というプロジェクト 1945-1970」
- 2018年6月26日、国際ワークショップ「『在日文学』研究の現在2：北米の動向と連動して」、Christina Yiさん（ブリティッシュ・コロンビア大学助教授／大阪大学大学院文学研究科特任講師）Passing in “Postwar” Japan: On Yi Yangji’s “I Am a Korean”、宇野田尚哉さん（本研究科教授）「一斉糾弾闘争とは何だったのか？：50年後から考える」、方政雄さん（元兵庫県立湊川高等学校教員）コメント
- 2018年8月3日、大阪大学大学院文学研究科グローバル日本研究クラスター・「国際日本研究」コンソーシアム共催国際ワークショップ「海外における日本研究の動向と展望」  
\*このワークショップについては、本報告書「特集1」をご覧ください。
- 2018年8月22日、和寧文化社/喫茶美術館（東大阪市）にて、若手研究者ワークショップ開催、李栄鎬さん（高麗大学大学院）報告、報告タイトル「1970年代の新しい潮流と在日朝鮮人：朝鮮文学の会、李恢成、『季刊まだん』を手がかりとして」、ジュリア・クラークさん（カリフォルニア大学ロサンゼルス校大学院）報告、報告タイトル「人間になること」：シルヴィア・ウィンター、宗秋月と「猪飼野文学」の可能性」、丁章さん（詩人）コメント。あわせて鶴橋・猪飼野フィールドワークを開催
- 2018年10月4日、トークセッション「文学研究における内と外：日本とドイツの視点から」、ユーディット・アロカイさん（ハイデルベルク大学教授）・三谷研爾さん（本研究科教授）発題、伊東信宏さん（本研究科教授）コメント
- 2018年12月2日、大阪大学大学院文学研究科・「国際日本研究」コンソーシアム共催国際シンポジウム Reimagining Japanese Studies from Asia-Pacific Perspectives 開催  
\*この国際シンポジウムについては、本報告書「特集2」をご覧ください。

2018 年 12 月 3 日，大阪大学大学院文学研究科・「国際日本研究」コンソーシアム共催  
Graduate Conference in Japanese Studies 2018 開催

\*この conference については，本報告書「特集 2」をご覧ください。

2018 年 12 月 5 日，大阪大学大学院高度副プログラム「グローバル・ジャパン・スタディーズ」主催若手研究者ワークショップ開催

\*このワークショップについては，本報告書「特集 2」をご覧ください。

2018 年 12 月 17 日，国際ワークショップ「日本研究再考：東アジアの視点から」開催，劉岳兵さん（中国・南開大学日本研究院院長）「中国の日本研究再考：南開大学日本研究の回顧と展望を中心に」，鄭炳浩さん（韓国・高麗大学校日語日文学科教授）「韓国における日本文学研究の国際化と東アジア」，宇野田尚哉さん（本研究科教授）コメント